

2.7 総合劣化度判定

各項目の劣化度判定 A～D を数値(点数) に置き換え総合劣化度判定を行います。総合評価値は、重要度(大規模修繕工事にしか行えない工事を優先)を加味して最終判定としました。

どの部位も役割がありますのでどれかを省くのは難しいですが、仮設なしで行える工事や地震や災害、危険を伴うものを重要度の基準としました。

鉄部は、重要度を低くしてますが発錆や腐食が進行しますと補修の難易度があがりますので、大規模以外での定期的(3～7年)な補修をお勧めします。

付帯物の中でも仮設工事が必要なものもありますので、大規模修繕時に同時に行うことをお勧めします。

点数 A : 1～2 B : 2～3 C : 3～4 D : 4～5

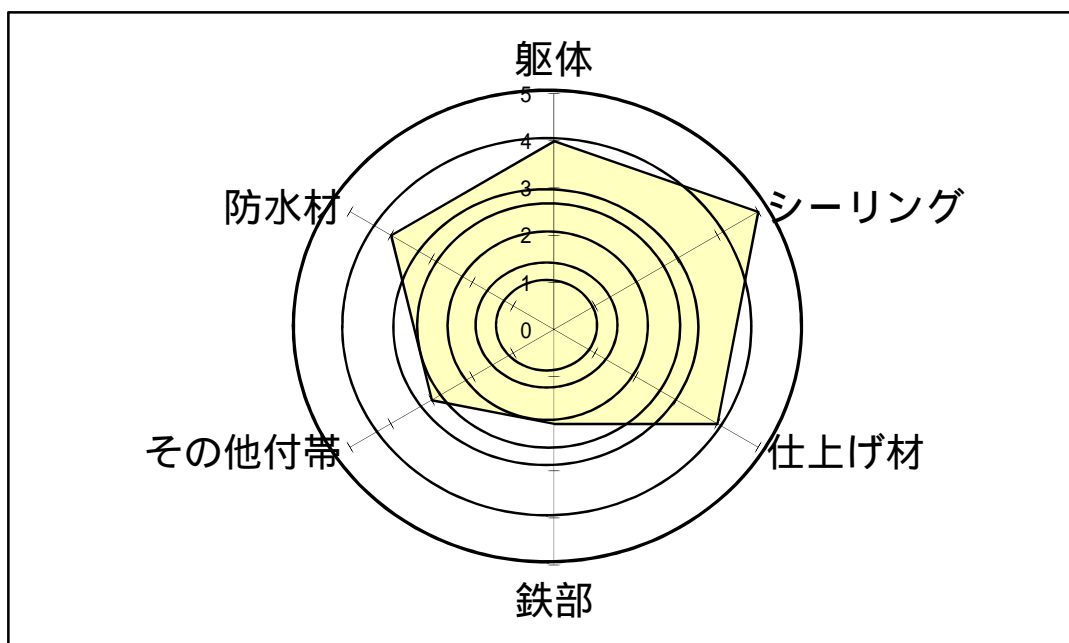
	判定	点数
1) 躯体の劣化度判定	劣化度：C	4
2) 既存シーリング材の劣化度判定	劣化度：D	5
3) 既存仕上げ材の劣化度判定	劣化度：C	4
4) 既存鉄部の劣化度判定	劣化度：B	2
5) その他付帯物の劣化度判定	劣化度：B	3
6) 既存防水材の劣化度判定	劣化度：C	4

診断結果

劣化現象	躯体	シーリング	仕上げ材	鉄部	その他付帯	防水材
劣化度	4	5	4	2	3	4
×重要度	4	4	4	3	1	4
判定値	16	20	16	6	3	16

総合評価 **77**

総合評価



2.8 総合評価

総合評価は以下の算出方法で行いました。

$$\begin{aligned} \text{劣化度} \times \text{重要度} &= \text{判定度} \\ \text{各判定度値の合計} &= \text{総合評価値} \end{aligned}$$

$$= \underline{\underline{77}} \quad \dots \quad \underline{\underline{C}}$$

総合判定値	21～40点	41～64点	65～84点	85～100点
総合評価	A	B	C	D

- A 良 い：調査対象の状態は良好で改装時期に至っていません。
B 悪 い：調査対象の状態は劣化しており数年後の改修が必要です。
C 著しく悪い：調査対象は著しく劣化しており改装時期に至っています。
D 顕著に悪い：調査対象は顕著に劣化しており早急に改修が必要です。

